

## 平成28年度第2回登別市教育委員会会議録

日 時 平成28年5月26日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 2階 小会議室

## 第2回 教育委員会議事日程

- 1 日 時 平成28年5月26日（木）午後4時30分
- 2 場 所 登別市民会館 2階 小会議室
- 3 議 案 議案第2号 登別市立図書館協議会委員の任命について  
議案第3号 登別市社会教育委員の委嘱について  
議案第4号 登別市スポーツ推進委員の委嘱について
- 4 その他
  1. 運動会の割り振りについて
  2. 千葉真子スポーツ講演会及び第41回登別こいのぼりマラソンについて
  3. 北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会について
  4. 学校施設の国の予算の動きについて
  5. 幌別中学校修学旅行について
  6. 教育行政改革に係る今後の方向性について  
(平成28年度文部科学省行政説明資料より)

### 出席者

(教育委員5名)

委員長	垣内登紀子	委員	森口達
委員	赤井秀輝	委員	堅田裕
委員	武田博		(教育長)

(事務局9名)

教育部長	佐藤史彦
教育部参与	野崎均
教育部次長	橋場太
総務グループ建築主幹	出口利美
学校教育グループ総括主幹	田中道郎
学校教育グループ学務主幹	櫻井貴志
社会教育グループ総括主幹	安部直也
図書館長	綿貫亨
給食センター長	小森仁

○**垣内委員長** それでは、本日の委員会は、5名全員が出席されておりますので、有効に成立していることをご報告いたします。これより、平成28年度第2回教育委員会を開催いたします。本日の議事は、議案3件になります。

それでは、早速議事に入ります。議案第2号「登別市立図書館協議会委員の任命について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

○**綿貫図書館長** それでは議案第2号「登別市立図書館協議会委員の任命について」をご説明いたします。議案書は1ページからとなります。登別市立図書館協議会につきましては5名の委員で組織されていますが、平成28年5月31日をもって任期満了となることから図書館法第15条及び登別市立図書館条例第7条、第8条並びに第9条の規定により新たに委員を任命するものであります。委員は登別市立図書館条例第7条により学校教育、社会教育、家庭教育の向上に資する活動を行うもの及び学識経験者から構成されております。任期は平成28年6月1日から2年間です。以上ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○**垣内委員長** ただ今ご説明いただきました議案第2号につきましてご質疑ございませんでしょうか。平成28年6月1日から平成30年5月31日までの任期で、委員は5名ということです。今回は校長会の方が1人新任ということで、その他の方は再任ということになっております。

（「異議ありません」の声あり）

○**垣内委員長** それでは、議案第2号については承認させていただきます。次に議案第3号「登別市社会教育委員の委嘱について」を議題といたします。事務局からご説明をお願いします。

○**安部社会教育グループ総括主幹** 本日お配りしました議案第3号「登別市社会教育委員の委嘱について」をご説明いたします。登別市社会教育委員につきましては、平成28年5月31日で任期満了となるため、登別市社会教育委員に関する条例の規定により委員の委嘱をするものであります。内容としましては、これまでの委員14名のうち再任が10名、新任が3名で、次のページに新旧対照表がございますが、千葉委員が本人からの申し出により退任となりますので、14名から1名減の13名の委嘱となっております。また、任期につきましては、平成28年6月1日から平成30年5月31日までの2年間となっております。以上です。

○**垣内委員長** ただ今の議案第3号につきまして皆様のご意見を伺いたいと思います。

○**橋場教育部次長** 社会教育委員につきましては、条例の中で15名以内という形になっております。それで前回婦人団体の方から1名いたのですが、団体の方が解散したということがありまして14名でやってきたと、それでさらに今回1名が抜けて13名体制になります。今回辞められた方は団体推薦ではなく個人の推薦になっておりますので、人がまた見つかれば、改めて審議をお願いするという流れになります。

○**垣内委員長** 15名以内という中で現状は13名ということですが、あとはまた皆様方の立候補があったり、こちらからどなたかに要請をして受けていただけたら人数が限りなく15名に近づいてお願いするということにはなりますが、この件についてもよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○**垣内委員長** それでは、議案第3号については承認させていただきます。次に議案第4号「登別市スポーツ推進委員の委嘱について」を議題といたします。事務局からご説明

をお願いします。

○**安部総括主幹** 議案第4号「登別市スポーツ推進委員の委嘱について」をご説明をいたします。登別市スポーツ推進委員につきましては、15名のうち9名が平成28年5月31日で任期満了となるため、スポーツ基本法の規定によりまして委員の委嘱をするものであります。内容としましては、9名のうち再任が6名、新任が3名となっております。なお、新任の方はいずれもNPO法人おにスポの方から選出されております。また、任期につきましては、平成28年6月1日から平成30年5月31日までの2年間となっております。以上です

○**垣内委員長** 只今のスポーツ推進委員の委嘱につきまして、皆様からのご意見を伺いたいと思います。新任の3名の方がすべておにスポの方ということで、思いがあつてなのか、それともこちらからの要望なのでしょうか。

○**安部総括主幹** スポーツ推進委員につきましては、前回上野精二さんをこちらからの推薦でお願いした経緯がありましたが、今回はスポーツ推進委員の方から推薦したいという意向がありました。おにスポからも永澤さんと橋本さんはサッカーで、川端さんはバスケットボールということで、偏った形にもなっておりませんし、自主的にやっていただけなのであればその方がうちとしてもよろしいかと思えます。

○**垣内委員長** 議案第4号につきましても了承させていただいてよろしいでしょうか。  
(「はい」の声あり)

○**垣内委員長** それでは議案第4号についても承認させていただきます。

以上で本日の議案はすべて終了いたしました。その他事務局から情報提供等がありましたらお願いします。

#### 【情報提供案件】

○**橋場次長** 早速ですが、6月の第1週、第2週、第3週の土曜日に各学校の運動会が入っております。例年委員さんに顔を出していただいて応援していただいておりますので、今回も都合が良ければ応援をお願いしたいと思います。

○**赤井委員** 私は富岸小学校。

○**森口委員** 鷺別小学校は森口でお願いします。

○**堅田委員** 登別小学校でお願いします。

○**垣内委員長** 今回は6月4日、11日、18日と分けて開催されるようですが、1校でよろしいですか。

○**森口委員** 雨天順延でよろしいですね。

○**橋場次長** はい

○**垣内委員長** 6月4日は青葉小学校、ひよつとすると幌別西小学校にもお邪魔するかもしれない。11日は都合が悪いので、18日若草小学校に伺います。もしほかのところへ行けるのであれば事務局へ連絡すればよいのですか。

○**橋場次長** はい。よろしくをお願いします。

○**垣内委員長** その他情報提供ありませんでしょうか。

○**安部総括主幹** 社会教育グループからです。千葉真子スポーツ講演会及び第41回登別こいのぼりマラソンについて情報提供いたします。資料は用意しておりません。まず5月7日土曜日の千葉真子さんのスポーツ講演会につきましては、委員長をはじめ委員の皆さんにご参加いただきまして、又、人集めもお手伝いいただきましてありがとうございます。

いました。お陰様をもちまして何とか開催することができました。来場された方からは「良かった」とこ声を聞いておりますけど、色々反省点もございまして次年度以降の事業実施の方に生かしていきたいと思っております。

また、翌日8日日曜日のこいのぼりマラソンにつきましては、天候にも恵まれまして大変多くの参加者、ボランティアスタッフ、観客も多く集まりまして、皆様のご協力のもと、大きなトラブル、けが人もなく無事開催することができました。参加者数につきましてはエントリーで600名、あと当日参加の幼児のオープン競技を含めると700名以上の参加ということで、昨年度と比べますと5割増しになっております。また、ゲストランナーとして千葉真子さんには親子3キロの部に一緒に走ってもらいました。また、表彰式でのメダルの授与ですとか手伝っていただきまして、華やかな大会になったと思っています。次年度につきましてもこれくらいの参加者数を維持していければいいなと思っています。ご協力ありがとうございました。以上です。

**○垣内委員長** その他情報提供ありますか。

**○橋場次長** はい、7月に北海道都市教育委員会が紋別であります、移動につきましてはワゴン車で私が運転していきたいと思っております。あと例年部会に分かれて意見交換を行うのですが、まだ届いていませんので、届きましたら、回答について調整しながらお知らせしたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

あと、学校施設の国の予算の動きですが、今年度厳しい状況がありまして、5月12日に北海道都市教育長会の春季の総会がありましたが、その中で緊急要望を行いましたということ、北海道と国に対して教育長会の方で要望を行うことになりました。それで20日北海道、24日に国の方へ要望書を提出しております。登別市の関係では、今年度は継続事業なので予算が付く予定ですが、来年度は鷺別小学校の解体工事ですとか外構工事、登別中学校の耐震改修工事とかが影響してくるので注視しながらの状況になっていることを情報提供します。

それから平成29年度の都市教育委員会の会場が決まりまして、来年は稚内市となっております。

**○垣内委員長** 前回の稚内は飛行機でしたよね。

**○武田教育長** そうでした。会議の会場が道央、道東、道南などと回っていきますので、市が少ないと回りが早いです。

**○野崎参与** それでは私の方から、幌別中学校の修学旅行のことで情報提供です。新聞記事と裏に行程表が載っているものですが、出発前に松本校長先生が教育長へこのような日程でというお話をいただきまして、見ると5月17日に白石城を訪ねると書いてありまして、それでは姉妹都市なので向うへ連絡をとということで櫻井主幹から連絡を取ってもらいました。向こうでは、副市長以下職員の方々がお城に来ていただいて甲冑で出迎えてくれ、お城の中で甲冑を着させてもらったり写真を撮らせてもらったり、あと真田丸に関するお土産をもらったりというようなことで対応していただきまして、それが向うの毎日新聞に載ったので、わざわざ向うから新聞報道がありましたという記事がその記事になります。今後もしそのような受け手の機会があればこれに準じながら力を尽くさなければいけないと思ひながら、このようなことがあったということで情報提供いたします。

**○垣内委員長** 幌中の修学旅行の生徒さんたちも例年になく思い出に残る経験ができたということでありましてありがとうございます。その他情報提供ありますか。

○橋場次長 教育長の方から全国の教育長会議の中で何かピックアップをお願いします。

○武田教育長 先週17日から徳島で行われました全国教育長会議に出席してきました。総会そのものは予算であったり、役員改選であったりでしたけども、その席に文部科学省の藤原審議官がおいでになっておりまして、この方は、教育委員会制度を残す第一の活躍者というか、そういう功績のある方で40歳そこそこの方ですが、その方の講和がありました。その話をしたいと思います。

いずれにしても制度的なことはそれぞれの教育委員会へ通知されて進んでいますが、今の国の文部科学行政の議論というか、その辺りのことの話ということでした。中教審の中でいろんな議論がされていますが、それらについても、まずは、その仕組みとして分かったことは教育再生実行会議という内閣府にある機関から提言、現在第8次までされていますけども、更に第9次に向けて検討されているようですが、そういう再生実行会議の提言を受けて、文科省が中教審に図っていくと、それで中教審で議論しながら国にバックして法制化を図って施策を推進していくとそういう流れになっているようですね。それでそのことは文部省だけではなくて全ての省庁が今、そういう内閣府の指示によって動いているというのが現状みたいで、一番力があるのが内閣府だと。総理大臣直轄の組織だというようなことで、いずれにしてもそういう意味では施策がどんどん進んでいくというような状況になっています。

再生実行会議の第9次に向けては情報化時代に求められる多様な個性を尊重した長所を生かして、教育へ転換していこうということが議論されています。最近人工知能AIの発展によって、今ある職業が取られるのではないかと、そういうことがいろいろ報道されているようですが、教育の方では取って代われないような職業、例えばコンピューターで代替できない志だとか、或いは創造性だとか、或いは感性というか、そういうものを必要とする職業は教育だと。そんなことを位置付けて議論をしているようです。それらについても第9次の中で提言をしてというようなことですが、既にそういう兆しがあって多様な個性というのはどのようなことかということ、要するに今までは一定の尺度の中で、今あるのは特異な才能を持っている方だとか、或いは集団生活になじめない子どもだとか、或いは発達障害を持っていたり、不登校の状態にある子どもだとか、そういう子どもたちをしっかりと見て行こうと、社会の構成員として認めていこうと、そのような動きがあるようでして、実際には我々の会議の1週間位前に倉敷でG7の教育大臣の集まりがあって、10年ぶりなんだそうです。そこで出てきたのも教育については多様な人と違うような能力を持っている方をどのように取り込んでいくのか、これらを個性として認めて活用していこうということ。また、障害を持っている子にヨーロッパを含めて障害を持っている子に暴力とかが頻繁に発生しているようです。そういうことを防ぐためにはどういうことをするか議論が沢山あったりして、そんなことが連動して日本でもそれをカバーしながらどう活用するのかの議論があったりしました。国際的には日本の教育は注目されておりますが、剣道の授業ですとか、これは武士道に絡むのかと思ったり、また、清掃活動というのは世界的には議論になるくらい、いい部分、日本らしい教育、日本のいい部分のシステムが国際的に評価されているのだというお話がありましたけども、そんなことを含めていろんな議論が行われていると感じて来ました。

そういう中で、現在文部科学省で抱えている課題というのは大きく2つあって、一つは新しい指導要領が小学校で32年、中学校で33年からスタートしますが、その教育課程、教育内容をどうするかということが一つ。もう一つは昨年の予算のときにずいぶ

ん叩かれましたが、教職員の定数改善、定数をどうしようかというようなことだそうです。定数の方は昨年それぞれ関係団体の協力もあって定員を減らすということにはならなかったのですが、また今年は財政諮問会議を通して減らすというような議論が起こるのだろうと言っていました。元々生徒が減ったものは、この定数を作るといううえでは算定には入っていませんでしたが、それを減っているから先生を減らせと言うような議論に流されてきて、また財政論議としては非常に強いものがあるので、文科省としてはそういうものをどうやって、例えば少人数学級はどのようなメリットがあるかだとかいうのですが、言えば言っただけ逆の理論で押し切られていると。文科省の弱い姿勢が浮き彫りになっているというようなお話でした。それから定数改善はともなくとして、学習指導要領の関係は、ちょっと前の新聞でゆとり教育からの脱却というのが今度の改定ではそういう方向ですというようなことがメッセージとして報道されましたが、結果的に中教審の中で議論されることは、ゆとりか、ゆとりでないのか、2極議論になるということが非常に多いと。そういうことでそれらに対してそうではないのだと、両方大事なのだと、両方を含めた2極対立のない中で両方進めるのだと、だからゆとりには戻らないというメッセージを発したので報道に載ったという話をしていました。

それから今盛んにアクティブラーニングということで子どもたちが事業に主体的に関わっていくのだと、それでアクティブラーニングというのが分かりづらいということと、子どもたちが主体的に事業に関わるということは実際どうなのかという議論が沢山あるようでした。

それから教育課程が3割増し位になるような検討をしているようで、例えば外国語を入れるだとか、何を入れるだとか、全体的にパンパンになるような、そういうことも中教審で示されているというような話がありました。

それと文科省としては新しい教育委員会制度がどのように進んでいるのかと、それは先ほどの藤原審議官が教育委員会制度を存続させた第一功労者といわれるくらい教育委員会に関わったと、教育委員会制度を国際的に持っているのはアメリカと日本と一部韓国くらいなのですね。このくらいの中なので、教育委員会制度なんていないのではないかという議論がどんどん出てきたと、そこに対して文科省としては従前の成果も含めて反論していて、当時A案だとかB案だとかどこに落ち着かせるという形の中で今の案が出てきたと、要するに教育委員会の権限をしっかりと、首長と関わらせるということではあるけれどもその立場としては、決定権限は与えない。議論はできるけれども決定権は与えないという仕組みに落ち着いた。少しずつではあるけれども首長の思いだとか、権限、発言というのは教育界としては重く受け止めていかなければならないというような話でした。現実には、今のところ市町村では3割くらいが新教育長、大綱の作成は順調に進んでいるのではないかと思います。やっぱり一番議論になったのは教育委員会制度の形骸化だというようなことで、そのときに話したのは、例えば、いじめで重要な事案ができた、ところが教育委員会というところに図らないでそのまま処理されていると、そういうことが依然として残っていると、やっぱり合議制の機関としてしっかりと責任の取れる進め方をして欲しいと、文科省の考え方ですが、もしこれがさらに形骸化の議論が進めば、次は多分、教育委員会制度はなくなるでしょう。市長の教育部という部局の一つで間に合うのではないかというような話をしておりました。これは今すぐの話ではないですけど、ある意味意識改革をして取り組んで欲しいという文科省の要請だろうと感じました。

後は、国が話し合っていることばかりですから具体的な政策ということではなくて、いつも文科省は課題を抱えながら動いていますが、そういう中では次の時代の教育のあり方みたいなものがいろいろ議論になっておりました。最近の文科省が発表した馳プラン、今の文部大臣のプランについても、経済財政政策計画会議改革行程表を作って2018年までにはこういうことをやりますよとか、19年にはこういうことをやりますよという冊子をいただいております。

その中で取り上げられたのが、一つは、教職員の資質能力をどう向上させていくのか。これは教育制度そのものを盛りだくさんにしたり、或いは幅のあるものにしたりするためにはどうしても教職員の資質能力の向上は避けられないということで、要請のあり方、採用のあり方、研修を通した施策の取り組み方などについていろいろ説明しておりました。

もう一つはチーム学校という取組でした。これは教育界側では、外部の人が学校に入ってくると、私どもコミュニティスクールをやったときもそうでしたが、なかなか学校という出来上がった文化の中では、外の人を簡単に受け入れられる組織ではない。勿論先生たちには職務があるわけですから逆にわずらわしさとか、そういうことも含めたお話でしたけども、なかなか入ってくることよっての学校の心配する部分の声大きいということで、文科省としては内部をしっかりと固めていこうと、そのうえで外部の人を導入するように、そんなことをしっかりと考えていきたいと、そこで考えられるのが例えば相談員であったり、今度は連携分担専門員だとか、部活動指導員だとか、そういう方々を設置していくと、なかなか部活を外に外してやるのだというのは日本の教育の今までの流れの中で、又国際的にも剣道をやったりすることはいいことだといわれていますが、そういう長所を生かした取組をしたい、だけど今のままでは先生方が多忙感ばかりで成果が上がらないと、だから多くの人を入れて地域で学校を運営していくというようなことで、今構想されているのは連携分担員、部活動専門指導員だとかを入れていきたいというような話でした。具体的には何時どうなるとは聞いてませんが、答申の概要ですから、昨年12月に中教審から答申がありました。そういう中での話でした。文科省はそれをどうやって政策化して予算付けをしていくかですねというようなことです。後はマネジメント機能ということで、管理職が学校経営をする上でどういう方策がいいのかというようなお話でした。

また、私どもがやっているコミュニティスクールについても昨年の中教審では、強く義務化するべきではないかという主張もあったようで、文科省としては一遍にはそういうことはできないと、とりあえずは目標として一割程度ということで、全国3千校くらいを目標に取り組むといっているのだけでも、次のステップが今の学校支援ではなく学校郷土とか学校連携となればコミュニティは必須条件だと、そういうことがなければ次のステップにいけないと、実質コミュニティは義務化されたのと同じですよというお話でした。そういう意味では早く取り組めてよかったと思っています。形だけにするのであればできるのだけでもなかなか身の入ったものにするのは難しいのかと思っていました。

後は小中一貫教育と学校規模の適正化の話がありまして、時間が限られておりましたけれども、小中一貫教育はこの4月から義務教育学校を設置者の市町村の判断で作れるようになって、カリキュラムを一部整理できるようになりました。現実には4月から走っているところもあったのですが、全国では義務教育学校として申請をしたところ



は22校だと、それから連携型で取り組んだところが136校あるというような話をしておりました。どっちにしても中一ギャップを解消するとか、9年間を見通した教育課程を組むだとか、それぞれ理由付けしながら取り組んだようですが、やっぱりこれから地域と連携して取り組んでいくということになれば、できるだけ長い期間を見通して教育を進めることが必要だと。登別市でも小中一環、途中ですけど基本方針を作って、あと何校かモデルでお願いして適時を進めていきたいと思っています。現実には小1校中1校の場合はストレートで9年間だけれども、一つの中学校に2つ3つの小学校がくっつく場合は校区の拡大だとかそういう議論にもなってくるのだと思うので、そういう取組が大事だと思っています。後は学校規模の適正化、最近は小学校4キロメートル、中学校6キロメートルという制限に加えて時間的なことも盛り込みながら市町村に考えてくださいということで、出てきたのが1時間くらいの通学は普通ですよという考え方です。なかなか子供が1時間歩くということがないですよ。現実には難しいのではないかと教育長同士の話がありました。平成の大合併で村と村が合併しました、ところが子供たちが減って、少人数の20人や30人という学校が出てきた。それをくっつける手立てとして、国がおすみつけを付けなければ、なかなか適正配置に踏み込めない背景があるようで、それはどっちが要請しての話か分かりませんが、そうして欲しいという県教育委員会の話なのか、国庫の負担金がかかるから学校を減らすという文科省の話なのかよく分かりませんが。学級編成を変えることができるような1学年2クラス程度の学校が適正な規模なのです。地域事情とはそれともっと外れて特殊事情だけ、標準的にはそこに的を当てた議論をしてくださいというようなことを言っていました。資料の中には、これからの教育のあり方ということで、もっと先の話というか又機会があれば資料として出したいと思います。そんなところが藤原審議官から聞いた話ですので報告させていただきます。まあ国レベルの話ですので都道府県、市町村は1・2年遅れというのが通常です。

**○垣内委員長** 情報提供は以上でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**○垣内委員長** ただいま情報提供いただきましたが、その中で皆様からご意見・ご要望などありましたらお願いします。

**○武田教育長** 宣言文というのがお手元にあると思いますが、全国都市教育長協議会の総会の宣言文としてこういう状況を踏まえた教育行政を推進していきたい。それで創案委員会が私の役割で、難しい話ではありませんでしたけれども、ただこんな形でいきたいなというところに、4月14日に熊本の地震が発生して、その後余震がどんどん続いている。教育についても影響があるということで、熊本が出てきたことによって、それまでの自然災害もクローズアップされるような状況がありましたので、日本各地でというところを頭に上げて、特出しで東日本と熊本の地震のことを取り上げた。いずれにしても正常な教育活動を行ないたいのだということで教育会としても連携していくという大会宣言文にしました。

**○垣内委員長** ただいまの情報提供に対しまして皆様の方からご意見だとか思いをお聞かせいただければと思います。教育長が全国都市教育長協議会というところで先んじた情報を提供していただけるのはありがたいことだと思います。この中で多様な個性をということで特異な才能とか発達障害の子供さんたちの長所を生かすということを謳っているながら教職員数の改善というところとミスマッチのような気がするのですが。

- 武田教育長** 文科省としての考え方は充実の方向に向かっているのですが、なかなか社会情勢上そういうわけにはいかないと。経済財政諮問会議から理論構築されているので文科省は弱いというイメージの話でした。昨年秋の予算に向けた定数改善の動きは、教育団体、或いは地元の衆議院議員、国会議員への要請文を出して欲しいと、そういう議論の中から昨年は先生を削るといのは議論をしっかりとしないでただ減らすといのは無茶でないかとなりました。諮問会議或いは財務省はもっときつい理論構築して今年は望むだろうと文科省は大変厳しい表情でした。
- 垣内委員長** 皆様の方から何かご意見なりありませんか。確か学校を含めて公共施設の耐震化の診断なり、もっと耐震化を進めましょうという動きと相まって動きがストップするということをおっしゃっていましたが、そういうことも矛盾している。人の命が一番大事なはずなのにといいところ、安全安心を守るという予算が削られて、もうこれは決定なのですか。
- 橋場次長** まだ決定ではないです。6月に来年度に向けた調査がありますので、それに提出して市の予算も考えていかなければなりません。
- 垣内委員長** それで登別市の小中学校を取ってみるとまだ改修する所が残っているのですね。どこがどう影響していくということもありますね。
- 橋場次長** 例えば、鷲別小学校の解体工事でしたら事業費が1億2,300万円で、それに対して4,100万円の国の補助金を予定しています。外構工事は、2億6,000万円のうちの2,000万円、この2,000万円がもらえることで1億8,000万円の市債が使えるようになります。これがないと交付税措置のないただの借金になってしまいます。あと登別中の関係でいえば、約1億6,000万円のうち補助金が1,500万円、市債が1億1,700万円となり、これも同じ考え方になります。市の財政は裕福でありませんでいい制度に乗っていかないと財政当局もうなずいてはくれません。
- 武田教育長** 国全体では、今年度地方全体からの要望額は、およそ2,000億円あったそうです。それに対して予算がついたのは1,000億円で、この範囲では継続事業しかできなかつたと、それで継続事業を優先して、新しいものは先延ばしとか切らざるを得なかつたのですね。国は引き続き財源が許せばということなので要望はしていると思いますが見込みはなかなか厳しいと思っています。
- 垣内委員長** 大震災が起こっているからそういうところには財源が必要なのだと思って欲しいですね。皆様から何か。マラソンも好天に恵まれて良かったですし、千葉真子さんの講演会のある子どもさんのスポーツ団体の方々が来られていました。
- 安倍総括主幹** おにスポさんです。
- 垣内委員長** 学校で部活動ですとかスポーツをされている方を中心に来ていただけると良かったのですが、彼たちの良い思い出になったり、そこから得るものがたくさんあったのだと思います。とてもいい講演だったのに。
- 橋場次長** 結構評判がよかったです。マラソン当日の評判も良かったです。
- 田中総括主幹** 中学校は当日陸上大会があったようです。それで参加できなかったのですね。
- 安倍総括主幹** 日程的なものと時間的なもの、今回は周知期間というものもありましたし、事業が年度当初ということがありましたので次年度は・・・。
- 垣内委員長** 私どもが講演を聞くよりも小中学校の児童生徒が大ホールに来て聞いても

らったら凄くよかったのかなと思います。次回のときはそういうことも視野に入れてもらえればありがたいと思います。このような講演会の今後の予算は。

○**安倍総括主幹** 今回が第一弾で、スポーツの種目は別のものという考えではいるのですが、あと3年間、東京オリンピック開催の前の年までは続けて生きたいと思っています。

○**垣内委員長** 皆様からのご意見もないようですので、それでは終了させていただきます。最後に6月の教育委員会の開催日について予定したいと思いますが、次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

○**橋場次長** 6月の教育委員会につきましては、6月30日木曜日で調整したいと考えております。

○**垣内委員長** それでは、事務局よりご提案のありました6月30日木曜日で皆様のご都合は如何でしょうか。

(「はい」の声あり)

○**垣内委員長** それでは、6月の定例の教育委員会につきましては、6月30日木曜日16時30分から市民会館小会議室で開催するという事でよろしいでしょうか。それでは、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ頂くという事で宜しいでしょうか。以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。